

高知西南部地域活性化懇談会

森長 沙耶

四国地方整備局 中筋川総合開発工事事務所 調査・品質確保課

(〒788-0783 高知県宿毛市平田町戸内1692-1)

高知県西南部が抱える様々な課題や高知県西南部の自立・発展・豊かさを実現するために高知県西南部の経済を支える商工会議所・商工会、青年会議所の団体や個人、有識者や行政等の様々な立場の方が一堂に会した懇談会が開催されました。今回は過去2回の懇談会を通じて出された地域の課題や解決に向けた方向性、連携のあり方などについて報告します。

キーワード 高知西南部，地域連携

1. はじめに

高知県西南部は高知県の西南部に位置する幡多地域の四万十市、宿毛市、土佐清水市、大月町、黒潮町、三原村の6市町村のエリアを表しています。



図-1 高知県西南部位置図

この高知県西南部は昔から愛媛県南部との交流が盛んで古くは一條公の京文化やジョン万次郎をはじめ多くの偉人を輩出した地域です。

しかし、近年では社会基盤整備の遅れ、少子高齢化、過疎化、そして近年の不況のあおりを受け地域経済は非常に厳しい状況です。また、台風常襲地域に位置するなど自然災害を受けやすく、さらに東南海・南海地震の発生が危惧されているなど防災面においても様々な課題を抱えています。

その中で高知県西南部の地域経済を支える方々からは、「商工会議所同士では一緒に会合等を行った事もあったが、青年会議所や他市町村、行政などとの縦や横の繋がりが希薄」といった意見も出されていました。

そこで地元の経済を支える商工会議所・商工会、青年会議所や地元の民間団体、市町村、高知県、四国地方整備局など高知県西南部における地域活性化や基盤整備に関わる主たる団体と、地域外からの視点という事で有識者として四国や九州での産学官の交流や連携等の経験を有する井原教授、元徳島県青年会議所理事長であり地域活性化を経営者の立場から推進されている立木さとみ様、少子高齢化・過疎化の中で早明浦ダム湖を中心とした地域活性化事業を推進されている石川水愛様、東京在住で都会から離れ自然と親しむツアー等を企画されている牧野由佳様に参画頂き、地域が繋がっていくきっかけ作りとして懇談会が開催されました。



写真-1 第1回目懇談会状況



写真-2 第2回懇談会状況

2. 地域の課題と提案

1回目は青年会議所、2回目は商工会議所・商工会と開

催主体を変化させた事で、各企業の課題から各市町村での課題まで幅広く提案されました。その中で高速道路や地域道路（国道）の整備の遅れや一次産業の衰退に伴う少子高齢化・過疎化、小規模店舗の衰退など地域全体から様々な課題が挙げられました。それらの課題に対して他地域での事例などを踏まえながら話し合った内容についてご紹介させていただきます。

(1)各市町村毎の課題

a)課題点

各市町村が抱える課題について下記のような意見が出されました。

「宗田カツオ（土佐清水市）やハマチ・タイの養殖など有望な地場産業が多数存在しているが、地域経済を盛り上げる程大きな効果を発揮するまでに至っていないように感じる。」

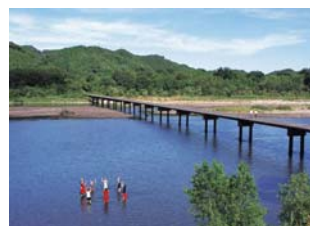
「最後の清流・四万十川」として有名になったが、四万十川（四万十市）観光は各地域への情報発信等様々な課題を抱え手詰まり感を感じている。」

「三原村では企業と契約し企業に提供するためのトマトを栽培している。徹底的な衛生管理などで契約菜園の中では収益率トップを担っており、地場産業として成功しているが、依然として地域外へ仕事に出る人が多く村にあった唯一の商店が閉店してしまい、高齢者の方々にとっては不便な状態となっている。」

「龍馬伝」の効果から高知県下に高知・安芸・梶原・土佐清水の4つにサテライトが設けられ観光に力を入れているが、土佐清水のジョン万次郎のサテライトの入館者数6万7千人に比べ、梶原の入館者数は8万8千人、高知市のサテライトは56万9千人、安芸のサテライトは9万9千人となっているなど、道路整備の遅れによる時間的な関係から観光客の流れが松山から大洲を通して梶原・須崎・高知へというルートで流れており、土佐清水まで来ていないのが現状である。」



写真一三 宗田カツオ



写真一四 四万十川¹⁾



写真一五 トマト菜園



写真一六 ジョン万次郎

b)提案

上記のような課題に対して有識者の方々や行政、他市町村の方より下記のような提案が出されました。

「地域の課題は行政や事業者任せにしておくのではなく、行政、事業者、生活者を含めた地域全体で考えていく必要がある、自分がどう関わりを持つていくのか、自分ができない部分は誰に補って貰うかという「共生社会」の考え方、地域全体が連携していく事が大切。」

「一次産業が発展していくためには、一次産業に新しい産業を組み合わせる異業種間の交流が重要。「三人寄れば文殊の知恵」とあるように多種多様な立場の人が集まり一つの事に向かって進んでいく事で新たな発見があると思う。」

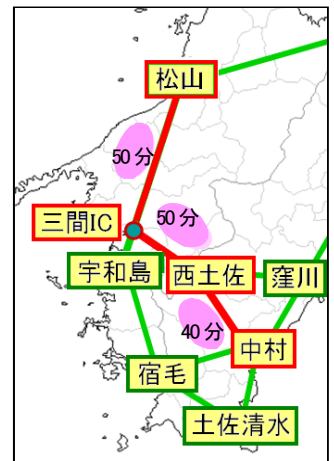
「「ごっくん馬路村」では少量生産にして新鮮というブランドイメージを大切に売り出す戦略など、「農業」と「情報操作」等を組み合わせるロジスティック産業として成功している。」

「宿毛市にある建設業者はダチョウの雛を飼育し、ダチョウ肉の試食会などを開催しながら飼料代や人件費等の経費を試算しダチョウの肉が地域に定着できるか販売経路やニーズなどのマーケティングを行っている。また将来的には牧場を観光牧場に開放するなど、新たな観光資源の開発を模索している。また、飼料に堤防除草の草を使用するなど異業種からの視点で取り組みを進めている。」



写真一七 ダチョウ's倶楽部

「道路整備の遅れの影響を指摘されていたが、三間ICが平成23年度3月に開通する事で図一2 移動ルート図に示すように松山から西土佐を通り中村（四万十市）まで約2時間30分で移動が可能になり、松山からこの地域への移動ルートが一つ確保された。各地域に多数存在していた地場産業が繋がり、地域全体が魅力溢れる地域になることでこのルートを利用した観光



図一2 移動ルート図

客の流れが出来てくるのはでないかと考えている。」

(2)高知西南地域全体の課題

a)課題点

地域全体が抱える課題について下記のような意見が出されました。

「様々な提案もあり広域的な取り組みが必要という事で、観光産業において各市町村の観光協会が統合した幡多広域観光協議会を設立し修学旅行向けの体験型の観光産業を進めているが、一般の観光客の誘致等もっと大規模に発展させたいと考えてる。そのためにだるま夕日（宿門市）、ホエールウォッチング（黒潮町）など観光資源を上手く活かして広域にPRしていく必要があるが、上手く進んでいないのが状況。」



写真一八 だるま夕日



写真一九 ホエールウォッチング

b)提案

上記のような地域全体の課題に対して有識者の方々や行政、他市町村の方より下記のような提案や意見が出されました。

「都会では作り込まれた人工物に日々囲まれており、逆に人の手が加わっていない自然の状態に惹かれる傾向がある。地域外の方からの視点を取り入れることで、ただの「海岸」を天然の観光資源として捉える事ができる。黒潮町にある「白浜海岸」は外から見ると「黒岩海岸」に見えたりと外からの視点を加えることで地域の資源の新たな価値を発見できるかもしれない。」



写真一〇 白浜海岸

「実際に観光地として成功している場所に泊まりに行ってみる事で新たな発見もあると思う。観光客誘致と言うことでは主催者側の意見だけでなく、観光客としての意見も重要で、「立場の交換」を行って物事を考える事は産業を発展させていく上でも重要となるのではないか。」との意見も出ました。

「徳島県上勝町の「いろどり」事業では山に落ちてい

た葉っぱを「逆転の発想」で料亭で使うツマモノとして商品化している。逆転の発想を持って新たな資源へと変換させていく事も大切ではないか。」という提案に対して「大月町では夜桜コンサートやダイビング、三原村と共同で牧野富太郎の道ウォーキングなど地域に眠っている観光資源の発掘に力を入れている。」との意見があり各地域では観光資源の新たな開発を進めている事が分かりました。



写真一〇 夜桜コンサート



写真一一 ダイビング

「徳島県の阿波踊りでは観ただけの人は「面白かった」で終わってしまうが、踊った人は「また来たい」という意見が多くリピータも多い。体験させることでもう一度やりたいという気持ちにさせ、もう一度地域を訪れて貰う方法もある。」との意見に対して、「高知県の助成金で完成した「黒潮一番館」では地域の名物であるカツオのタタキを実際にカツオをおろして、焼いて、食べるという体験ができる施設として活用されている。」との紹介があり、体験型施設も再認識されました。



写真一二 カツオのタタキ体験

このように、様々な課題解決のためのヒントが提案される中で、「各市町村毎では他の成功例と同様な手法を用いて観光産業を勧めているところもあるが、全国的に広まっておらず情報発信に手詰まりを感じている。」との意見が出されました。それに対し有識者からは情報発信の手法例として、「鶴雅（北海道）にあるホテルでは冬の閑散期に観光客を誘致するため「マイナスをプラスに変えるような新たな視点」から「鶴雅は冬がいい」というキャッチコピーとともに「冬の鶴雅遊び方読本」を一緒にHPに掲載するという情報発信方法で観光客誘致

に成功している。」

「瀬戸内芸術祭」では瀬戸内の魅力を世界に発信し、地域の伝統工芸や芸術家を世界へ発信する事を目的にターゲット(観光客層)を「外国人」に設定し、3カ国語(英語、韓国語、中国語)による情報提供や受入体制を整え、徹底的に外国人向けに情報を発信したことから外国からの観光客誘致に成功している。ターゲットを定める事でターゲットが求める情報が何かを考え情報発信している。」といった成功例が紹介されました。



写真—1 4 外国語併記の観光案内板²⁾

さらに議論を進める中で、有識者の方より「一番重要な事は「観光」とは何かを深く考えるべき。「観光」の語源は中国四書五経のひとつ「易経」にある「国の光を観る」つまり「光輝く人物を観察する」事から来ている。空海が開いた綜芸種智院の思想のように、立派な観光施設があるから地域のためになる観光客が集まるという考え方から、故郷の誉れなる人がいるから地域のためになる観光客が集まるという考え方にすべき。「あの人に会いたい」と観光客に思わせるような魅力ある地域作りを目指していく事がこの地域にとって大切な事ではないか。」との提案がなされました。

3. まとめ

懇談会を通じて今まであまり交流の無かった各市町村の商工会議所・商工会、青年会議所が、自分達の思う地域の課題や提案等を一同に議論する事で各市町村が抱えていた課題や有望な地場産業、観光資源を地域全体で共有する事が出来ました。

商工会議所の方々からは、「今まで面識の無かった有識者の方から外からの視点や他地域での成功事例の裏側や仕掛けなど今まで知らなかった事を知ることができた。」といった意見が出されるなど今後に向けての貴重な教訓や参考事例として活用が期待されます。

今回の懇談会では観光客誘致のために各地で様々な趣向を凝らした素晴らしい資源がたくさんある事が分かりました。有識者の方より出された「いろいろ」事業で

は「年金受給者」であった高齢者を事業に上手に組み込む事で生涯現役の「納税者」へと変化させる事ができ、高齢者がいきいきと元気に暮らせる街へと変化した事で、少子高齢化で悩む各地の団体などが視察に来る街になった。魅力ある街づくりはそれだけで観光や産業資源になる。」との事例紹介のように、今後は情報交換を行いながら、点と点で存在していた各地の有望な産業を線で繋げていく事で、高知県西南部が大きな魅力ある地域となり、地域自体が大きな観光資源へと繋がっていくように感じました。

4. 今後の予定

3月11日の東日本大震災を契機に防災の大切さが再認識されました。今後は、東南海・南海地震で津波被害を想定されている地域の実情を踏まえ、出来つつある地域の繋がりを観光や産業だけではなく防災の面でも繋がるきっかけ作りを行っていきたく考えています。東日本大震災の体験談などを教訓にしながら、関係機関と市民との連携のために「災害に強い街作り～自助・共助・公助～」をテーマに話し合いを行う予定です。また、経営者だけでなく、被災状況のパネル展示や災害時の対応などを紹介するイベントなどを通して地域の子供達や婦人会の方々にも地域の防災について家庭から防災を考えていくきっかけ作りを行っていく予定です。

謝辞：懇談会の趣旨にご賛同頂き快く講師を引き受けてくださった井原教授、立木さとみ様、牧野由佳様、石川水愛様、懇談会の企画・運営にご尽力下さいました高知西南地域活性化推進協議会(宿毛商工会議所、土佐清水商工会議所、中村商工会議所、黒潮町商工会、大月町商工会、三原村商工会、四万十市西土佐商工会)中村・宿毛・土佐清水の青年会議所の方々、高知県、四万十市、宿毛市、土佐清水市、黒潮町、大月町、三原村の各地方公共団体の方々に心より感謝いたします。

懇談会で議論された内容は下記のように小冊子にして配布しています。



写真—1 5 懇談会議事録小冊子

参考資料

- 1) (財)高知県観光コンベンション協会
- 2) 香川県香川滞在型観光推進協議会 香川せとうちアート観光圏